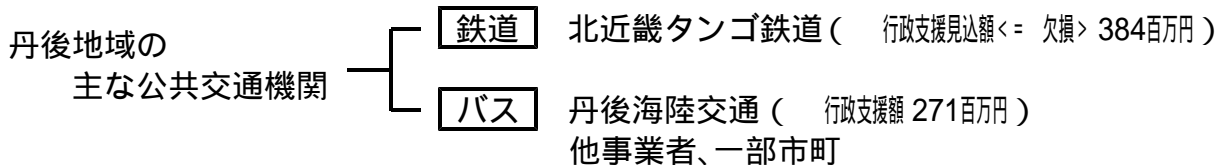


実現会議の設置趣旨及び今後の取組について

( 1 ) 現状と課題



各事業者ごとの課題

利用者が年々減少 (モータリゼーション進展に伴う自家用車増、少子化に伴う人口減)



赤字補填を基礎とする「行政支援額」の増加

各事業者はこれまで、住民生活上必要な路線の確保とともに、経営努力  
しかし、利用者増まで至らず、地域活性化の観点も含め地元でも新たな取組進行中

K T R	人件費・修繕費等の抑制 ・「増収プロジェクト」(16年～) ・「経営改善検討委員会」(17年、KTR・府・沿線市町)	→	企画商品の新規開発 (まるごと丹後乗り放題切符等)
丹 海	経費節減 「ボンネットバス導入による定期観光バス」(16年～)	↑	
沿線市町	市町単位の企画列車 地元促進協「利用促進検討WG」(17年) ・「KTRサポーターズクラブ」(中に立ち上げ) ・「KTRに乗る日」(毎月1日) ←	↑	リ ン ク

交通ネットワークとしての機能面の課題

鉄道内や鉄道・バス間の接続が取れたダイヤ設定や、接続状況の情報等、交通ネットワーク全体の情報提供

( 2 ) 今回の新たな取組

公共交通ネットワーク全体を、更に利用者(住民)最適のものに改善していくため、「分かりやすく、使いやすい公共交通ネットワーク実現会議(丹後地域)」を設置

目的	<p>交通ネットワークは、「ダイヤ」、「車両」、「運賃」、「停留所(駅)」、「情報(時刻表、パンフ、ホームページ等)」等により構成されているが、それぞれの機能を今一度見直し、ネットワーク全体を利用者(住民)最適のものに改善          そのため、関係者が一体となって協議する新たな枠組み(実現会議)を設置し、いわゆる提案型でない「改善実行計画」を作成(できるだけ実験・試行計画も盛り込み)</p>
視点	<p>住民にとってより良い「生活交通」      観光を一層振興する「交通」</p>

【スケジュール】

	実現会議	同ワーキンググループ
17年 11月30日	<p>第1回 会議設置</p>	<p>&lt; 随時、実態把握と検討・協議 &gt;</p> <p>(1)改めて、徹底した実態把握            ダイヤ・運賃・車輛・情報等、交通システムの項目ごとに、利用者の立場に立った「点検表(チェックシート)」を、作成のうえ、現地調査・検証            「利用実態調査」(委託調査)            鉄道・バスの全便・全区間を基本に、利用区間や年齢層の把握</p>
18年春	<p>第2回 「改善実行計画(骨子案)」のまとめ</p>	<p>(2)「改善実行計画(骨子たたき台)」の検討・協議</p>
	<p>第3回 (利用者の視点に立って広範な協議を行うためメンバーを拡充)            幅広いメンバーに拡充し、骨子案を基に、実行計画作成に向け協議            ・利用者(住民)、その他交通・観光事業者            ・アドバイザー(国、学識経験者、JR西日本、旅行エージェント)</p>	<p>(3)拡大ワーキンググループによる検討・協議(必要に応じて、追加の実態把握)</p> <p>(4)「改善実行計画(素案)」の検討・協議</p>
18年9月 (目標)	<p>第4回 「改善実行計画」のまとめ            ↓            実行</p>	